

## 仕事の

## 余白

スリランカに来てい  
ます。海岸を歩くと砂

は赤く「セイロン島」は赤い土の意  
味を思い出します。この国で得た情  
報と経験が紅茶の産地化事業化を夢  
見させ、10年の歳月を経てやっと確  
信に変えることができました。

遠く離れた二つの島には偶然とは  
言いがたい共通点があり、赤土だけ  
ではなく、お母さんを意味する「ア  
ンマー」や同じ植物も多いです。さ  
かのぼれば、沖縄の海人がセイロン  
島を訪れ、天日干しのカツオを持ち  
帰り、かつお節が鹿児島に伝わるも  
とになった説などは尽きません。  
ともに私の第2のふるさとです。  
ひらめきや行動に移す知恵と勇気を  
もらい、多くの方のおかげで仕事を



## 内田 智子

沖縄ティーファクトリー社長

スタートさせることができました。

今、スリランカは内戦終結から3  
年余がたちました。開発が加速する  
国のあちらこちらに大切なものとそ  
うでないものを見分ける努力を垣間  
見ます。今回も新しい方法と価値観  
を見直す姿勢に多くを学びました。

島国では外貨を稼ぐ必要があります。  
ごく当たり前にグローバルな考  
えとビジョンを語る彼らは、広い市  
場では常に「質」と「量」の戦いが  
待ち受けていることを知っていま  
す。私が沖縄で作る紅茶が「質」を  
目指さなければならなかった理由の  
説明がいらぬほどです。新しいプ  
ロジェクトのためにコロンボオーク  
ションで仕入れた紅茶を飲みなが  
ら、多くの再発見から見えてくる方  
向性に好奇心が顔を出します。

## セイロンと沖縄